

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	明治初期の北海道開拓使大判官松本十郎の生涯及び業績の研究
------	------------------------------

研究代表者

氏名 佐藤 正光	所属 人文社会科学系日本語・日 本文学研究講座	職名 教授
-------------	-------------------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

松本十郎の自筆資料『松本家系譜』における、家系の記述、及び幼少期から戊辰戦争に至るまでの漢文体の自叙史を書き下し文に直し、さらに現代語訳した。これにより、(1)十代で父に従って庄内藩の所領である北海道浜益毛(北海道石狩市)に赴任した際の旅程、及び北海道滞在時の状況、(2)庄内(山形県鶴岡市)へ帰還して後、京都での攘夷運動による不穏な世情から庄内藩が江戸警護の命を受け、その警備隊の一員として江戸(東京都)に滞在した経緯と江戸での状況、(3)伏見戦争の幕府軍敗北により江戸守護職を辞退し帰藩を命じた藩主に従って郷里に帰り、戊辰戦争に従軍した経緯とその状況等を明らかにした。

一方、松本家の子孫である松本孝敏氏より関連資料の閲覧、及びご自身の調査資料や松本家で見聞した松本十郎の事柄等について、4回にわたって千葉県船橋市のご自宅を訪問し、取材調査を行った。また、松本十郎についての論考(昭和36年)を著した西宮市教育委員会の飯野一氏の資料閲覧のため西宮市立図書館で調査を行った。また、戊辰戦争とその後の西郷隆盛による西南戦争の際の京都の情勢に関する資料調査を京都、大阪で行った。

以上のように、『松本家系譜』を主とした読解作業と、それを裏付ける上で重要な訪問取材調査、資料閲覧調査を重点研究費配分期間に実施することができた。だが、残念ながら松本孝敏氏が昨年秋に体調を崩されたため、その後の取材調査については断念した。また、松本氏からの依頼もあり西宮市立図書館での調査を行ったが、松本十郎の郷里の鶴岡市立図書館での資料による翻訳箇所原典確認等については、今回は調査が及ばなかった。

『松本家系譜』について、松本十郎の北海道浜益毛に至る旅程を具体的に確認したことは意義があり、今後、北海道の当該地点に赴いて実踏調査を行いたい。なお、廃藩後から明治九年の北海道開拓使大判官を辞職するまでの後半部についてさらに翻訳と考証を行うため、研究を継続したいと考えている。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

一、二年以内に翻訳を完了し、書籍として刊行したいと考えている。